



「コロナ後に向けて」

秋田県立図書館 館長 高橋 貢



昨年の三月、全国の学校が一斉休校し、教育施設もほとんどが臨時休館になりました。当館も一カ月ほど休館しましたが、その間、「ほかのことは何もやらなくてもいいから、とにかく本だけは貸してほしい」という要望が県民から多数寄せられました。図書館にとって一番大切なことは何か、そうした図書館の原点について改めて考えさせられた期間でした。

今更申し上げるまでもないのですが、現代の図書館の役割は、地域や街の活性化、文化の振興、情報の発信、ビジネスの支援、人と社会をつなぐ、地域の諸々の課題解決を支援する等々、非常に多岐にわたっています。そうした中で秋田県立図書館は、県民のどのような要請に応えて、何を選択し、焦点化していくのか。私たちは、絶えずそれを考え続けなければなりません。なぜならば、人や予算には限りがあるからです。まさにローカルオプティマム（地域ごとの最適状態）の視点が必要です。

現在私たちは、図書館業界の最新の流行にはあまり惑わされず、学校教育や県民の課題解決支援に軸足を置いた方が県民の要請になっている、と分析しております。

「市町村立図書館や学校図書館を通して多くの児童生徒に本を提供し、知性や教養、および学力の基盤となる人間力の部分を育てることに貢献したい」という目標はその一例です。まさに、少子化に苦悩しつつも、学力の高さを維持している本県のローカルオプティマムにも合致しています。本県は、人材育成こそが未来への要です。

コロナ禍で残念だったのは、長年温めていた計画が幾つか実施できなかったことです。その一つに「『巡回文庫』と『おりおん』プロジェクト」という計画があります。

○『巡回文庫』・・・明治三十五年、本館二代目館長佐野友三郎が、我が国で初めて郡市へ本を貸し出す制度をつくった。木箱に百から百五十冊ほど本を入れて、郡立図書館に持ち回りで貸し出した。それを『巡回文庫』と名付けている。この名誉ある名称を復活させたい。

○『おりおん』・・・昭和二十八年、動く図書館として「自動車文庫」が誕生。全県を回って本を貸し出し、県民の読書推進、文化度向上に大きな役割を果たした。車の名前は公募で『おりおん号』と決定。この名称も復活させたい。

○事業の内容としては、全県の幼稚園や小学校や学童にセット本（一ケースにテーマ毎に三十から四十冊）を届ける。現在、高等学校と特別支援学校は九割近くが県立図書館のセット本を利用し、県立図書館コーナーを設置しているが、少しずつ幼稚園や小中学校にも広げ、全県の学校に県立図書館コーナー「おりおん文庫」を創設したい。



セット資料20コンテナを活用した能代科学技術高校の県立図書館コーナー

その他、秋田大学医学部附属病院との連携を拡大し、健康寿命日本一を支援するプロジェクトや、農林水産業に焦点を当てて若者の起業を支援するプロジェクト等、幾つかの計画を立案中ですが、実践はコロナ明けになりそうです。

それまでは、オンライン方式に磨きをかけ、市町村立図書館や各学校と更に連携を深め、職員研修にも力を入れていくつもりです。

県立図書館がオンラインで実施した各種事業について

1 はじめに

新型コロナウイルスの感染が国内で確認されてから2年、感染防止対策として密を避けた状態での各種事業の実施が求められるようになりました。県立図書館が主催してきた集合型のイベントや各種研修会、市町村立図書館等への出張事業についてもそれまでの方法では実施が難しくなり、昨年度はやむを得ず中止や延期等をしました。令和3年度はこれまでと異なる方法を取り入れながら、試行錯誤して事業を行ってきました。その中から、今回はオンラインにより実施した事業についてご紹介します。

2 オンラインを活用した事業について

最初にオンラインを取り入れたのは市町村立図書館等の職員との情報交換会です。それまでは県立図書館職員が市町村へ出張し、図書館サービスについての助言や運営に関する相談等を受けてきましたが、それらをオンライン会議により実施しました。1対1でのやり取りが主であったため、基礎的な操作を覚えるいい機会にもなりました。

その後、全県の市町村立図書館等を対象とした研修会や秋田県図書館大会、県内の学校図書館関係職員を対象とした研修会・情報交換をオンラインで実施しました。ここでは、複数の参加者と県立図書館とをつなぐ他、研修会場の様子をライブで配信しながら研修会を実施する方法にも取り組みました。またあらかじめ作成した動画を共有したり、オンライン上で意見を出し合ったりといったことも行いました。音声がお断りになる、動画の再生が途中で止まるなどのハプニングもありましたが、原因等も突き止めながら、オンライン研修会の回数を重ねてノウハウを蓄積していきました。

県民向けの事業についてもオンラインで何かできないだろうかということを探し、期間限定ではありましたが、県民読書の日に毎年実施していた図書館見学と貴重資料紹介について、YouTubeチャンネルを開設し、動画の投稿により実施しました。ここでは動画の撮影と編集にもチャレンジしました。

オンラインによる事業を開始するにあたり、この分野に長けた職員がいたわけではありません。分からないながらも、色々な方法を試し、改善点を次の事業に生かしながら進めてきました。専用のPCや撮影用のカメラ等を今年度導入したことも大きな後押しとなりました。

オンライン会議システムを導入したことで得られたメリットは多くあります。これらの試みが今後県民の皆様への図書館利用に際し、効果的に活用できるよう、リアルとオンラインを併用しながら図書館運営に生かしていきたいと思っています。



「学校図書館職員等研修会」や「秋田県図書館大会」では、会場での講師の講演をテレビ中継のようにビデオカメラで配信する方法に取り組みました。また、離れた場所にいる参加者が、写真等を共有しながら発表することにも取り組みました。



職員研修会では、講師と会場をオンラインでつなぐことで、講師に会場まで来ていただかなくても研修が実施できるようになりました。



11月1日の「県民読書の日」に合わせ、貴重資料の紹介や館内案内をYouTubeで配信しました。臨場感が出るよう撮影や編集を工夫しました。

Topics

～県立図書館の事業やイベントなどの紹介～

近代美術館との連携展示 ファッション・アワード「装い」の表現ー

12月10日(金)から1月25日(火)まで、近代美術館との連携展示「ファッション・アワードー「装い」の表現ー」を開催しました。美術作品に登場する着物や装束などの「装い」に注目することも、鑑賞の楽しみの一つです。この展示では近代美術館が所蔵する「装い」をテーマとした美術作品21点を紹介しました。

明治後半から昭和初期に描かれた草薨興宗の「若い婦人像」では、ウェーブがかかった髪型や南米から伝わったカトレアの花が描かれた着物の柄に、当時の流行を感じることができました。勝平得之の版画「雪国の子どもたち」では昭和初期の秋田の冬の装いを垣間見ることができました。また当館からも明治から昭和戦前にいたるファッションの歴史等に関する図書を展示しました。



左から橘小夢、結城素明、
草薨興宗の作品



勝平得之の版画「雪国の
子どもたち」

第47回秋田県芸術選奨受賞記念展

2月11日(金)から2月23日(水)まで、第47回秋田県芸術選奨受賞記念展を開催しました。本年度の芸術選奨は、メディア芸術部門(アニメーション)に八代健志さんと学術部門(伝記)に加藤隆子さん、ふるさと文化賞では「0to(おと)を楽しむ会～古きピアノに樺のアート・プロジェクト～」が受賞しました。

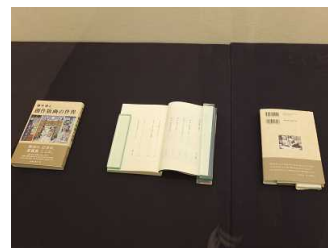
八代さんは監督した短編アニメ映画「ごん GON, THE LITTLE FOX」で使用した人形や制作資料を展示した他、人形を1コマずつ撮影するストップモーション・アニメのメイキング映像や予告編も上映しま

した。

加藤さんは版画家勝平得之の生涯を追った著書や連載された新聞の紙面などを展示しました。また、「0to(おと)を楽しむ会～古きピアノに樺のアート・プロジェクト～」はグランドピアノに樺細工を施して再生させた活動やコンサート写真をパネルで紹介しました。



八代さんの制作現場を復元
した展示



加藤さんの著書『勝平得之
創作版画の世界』(秋田魁
新報社)

今年度のスロープ展示から

1階エントランスから2階閲覧室に向かうスロープでは、数ヶ月ごとにテーマを変えてスロープ展示を実施しています。令和3年度はオリンピックイヤーとして、6月～7月の2ヶ月間「オリンピック・パラリンピック資料展」を開催しました。秋田県出身選手が活躍した際の号外記事や過去の各大会の公式写真集といった懐かしい資料のほか、1964年東京オリンピックを記念して出版された世界のオリンピックの大会ポスター集、当時の公式パンフレットなど、古い貴重な資料も展示しました。令和4年度も様々なテーマの展示を予定しています。ご来館の際は、ぜひご覧ください。



1964年東京オリンピック・パラリンピックに関
する資料

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

吉川五明稿本類並びに関係資料が県指定有形文化財に

きっかわ ごめい

県立図書館所蔵の「吉川五明稿本類並びに関係資料」24点が県指定有形文化財になりました。吉川五明は江戸時代中期から後期に活躍した秋田の俳人で、当館の資料は五明の俳諧の軌跡をたどることのできる貴重な資料として認定されました。写真で紹介した稿本『暁の霜』他『夢に螢』『こほれ穂 上中下』『俳人書簡貼交ぜ帖』、掛軸「発句画賛 田に山に」「発句画賛 夕小雨」「俳諧画賛 春の山」、また木製の柱がくし「家ごとに」や五明が使用したという木製文台があります。資料は順次デジタルアーカイブに公開していく予定です。



『暁の霜』は妻を失った悲しみを詠んだ五明と一門による追悼句集（時雨庵文庫 時279）

情報班・サービス班

図書館をもっと便利に～「マイ図書館のご案内」～

コロナ禍により、自宅で過ごすことが増えた方も多いのでは。図書館のホームページには、来館しなくとも資料の予約や返却期限の延長等ができる「マイ図書館」機能があります。利用のためのパスワード登録は、スマホ、パソコン、図書館内の蔵書検索システムのどれでも簡単にできます。ぜひご活用ください。



「マイ図書館」にログインした画面

- 「マイ図書館」で利用できるサービスの一部
 - ・貸出中の資料の予約
 - ・借りている本の返却期限延長（1回のみ）
 - ・自分が借りている資料、予約している資料の確認
 - ・読書履歴（過去に借りた本）の確認（設定が必要です）
- 問い合わせ先：県立図書館 情報・サービス班

企画・広報班

学校用セット資料の豆知識

高等学校・特別支援学校向けのセット資料を毎年追加・更新し、各学校へ貸し出しを行っています。

資料を入れるコンテナは4種類あり、右の写真のようにミニ・小・中・大のサイズがあります。大サイズのコンテナに50冊近くの本を入れると重さは20kgを超えるため、発送の準備は力がある仕事です。

多くの学校に利用されるよう、今後も広報に努めたいと思います。



本の大きさや冊数によって、使うコンテナの種類を変えています。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■県立博物館との連携展示

特別展示「絵葉書にみる昔の秋田一町・人・暮らし」

昔の絵葉書には、街並み、公共の建物、学校、工場など日常生活空間を写したものが多くあります。それは、当時の町の姿や人々の暮らしを知るよすがとなる、貴重な画像資料です。この展示では明治から昭和戦前期の写真絵葉書によって、秋田の昔の景観や文物、現在との違いを紹介します。

- 【期間】 4月8日（金）から5月24日（火）まで
※毎週水曜日は休館日
- 【時間】 午前9時30分から午後5時まで
- 【会場】 特別展示室
- 【入場料】 無料